

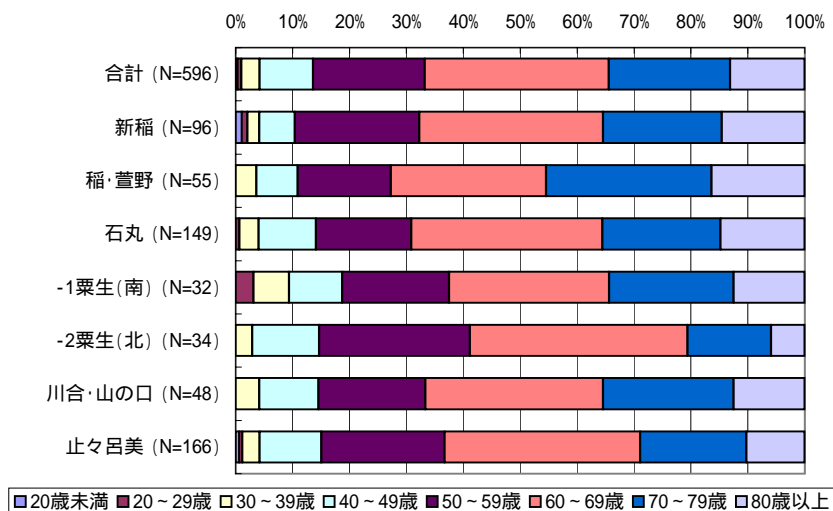
# 土地所有者アンケート調査結果 (071112時点速報版・主要な設問のみ掲載)

資料4

地区名	配布数	回収数	回収率
1新稲	205	97	47.3%
2稲・萱野	93	55	59.1%
3石丸	286	150	52.4%
4粟生	141	67	47.5%
4-1外院・粟生外院(地区南側)	75	33	44.0%
4-2粟生間谷西(地区北側)	66	34	51.5%
5川合・山の口	95	48	50.5%
6止々呂美	662	169	25.5%
無回答		17	
合計	1,482	603	40.7%

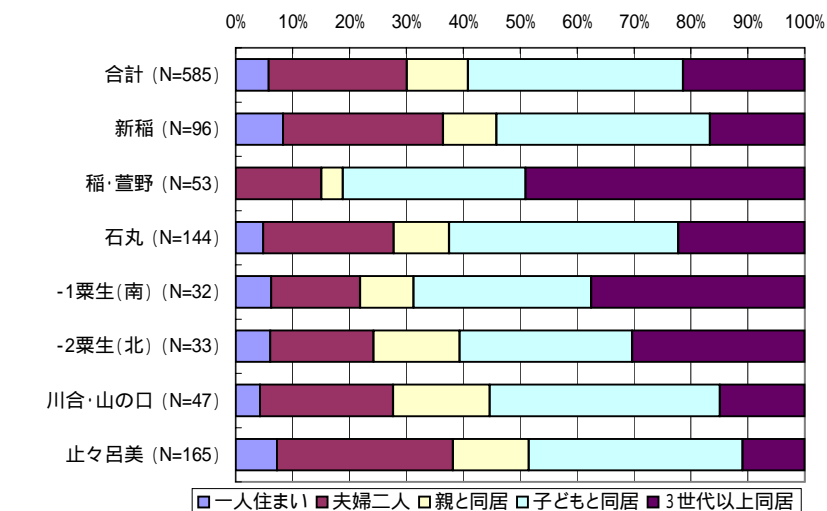
不明、無回答は除く  
回答指示に従わなかったものは除く

## 問1 年齢



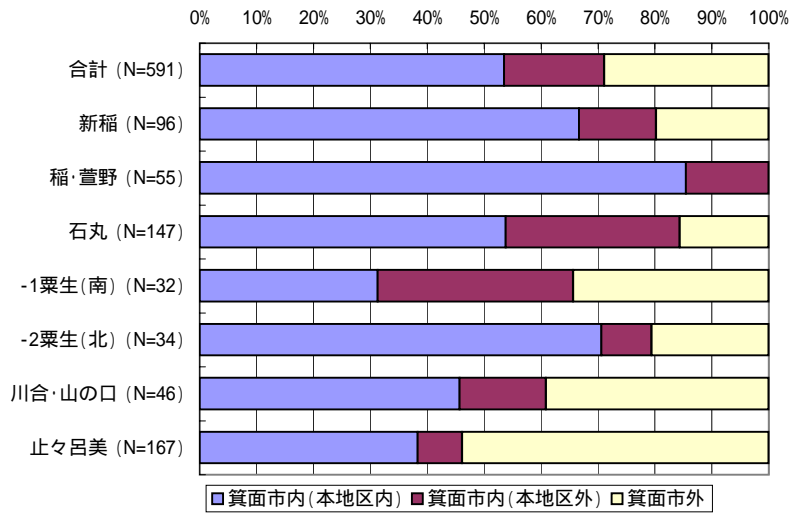
・回答した土地所有者は60歳以上が中心で、全体の7割弱を占める。  
・特に 稲・萱野では70歳以上が5割弱を占める。

## 問2 世帯構成



・ 稲・萱野、 -1粟生(南)、 -2粟生(北)で3世代以上同居が多い。

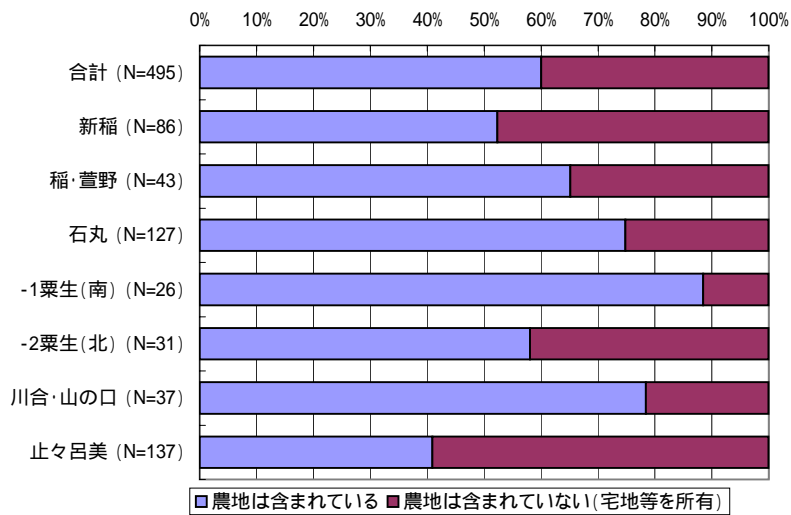
問4 居宅の位置(あなたのお住まい(居宅)はどこにありますか)



・ 新稲、稲・萱野、  
-2粟生(北)は地区内に居  
住する土地所有者が多  
い。

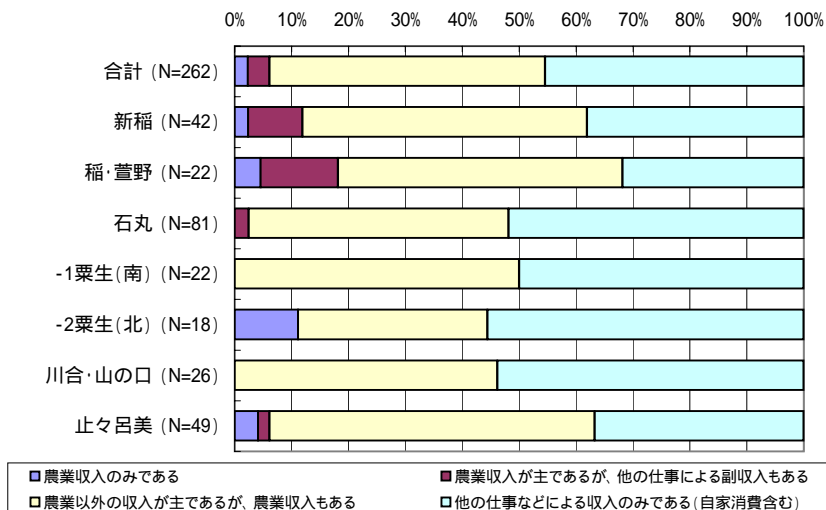
・ 川合・山の口、止々  
呂美では市外に住む土地  
所有者の割合が高い。

問5 市街化調整区域内の農地所有(お持ちの土地には、農地(休耕地などを含む)は含まれていますか)



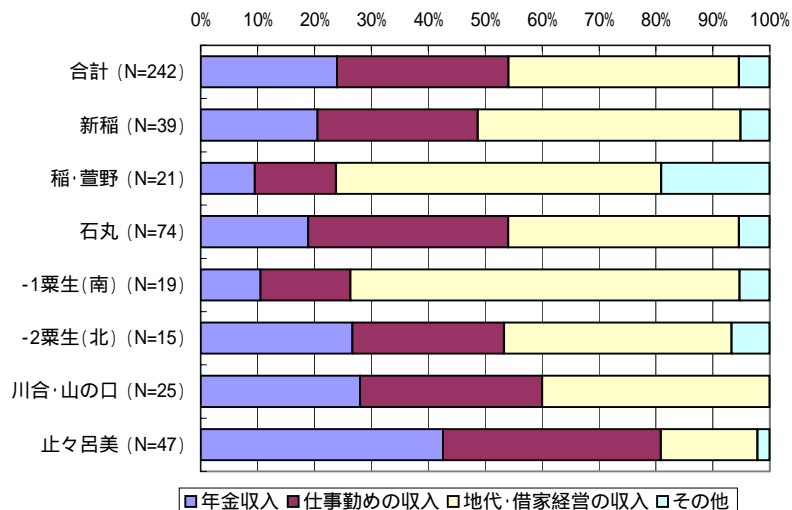
以下、問12まで、農業者(農地は含まれると回答した方)のみを対象

問6 世帯の収入源



・石丸、-1粟生(南)、-2粟生(北)、川合・山の口では、農業収入を得ていない土地所有者が多い。

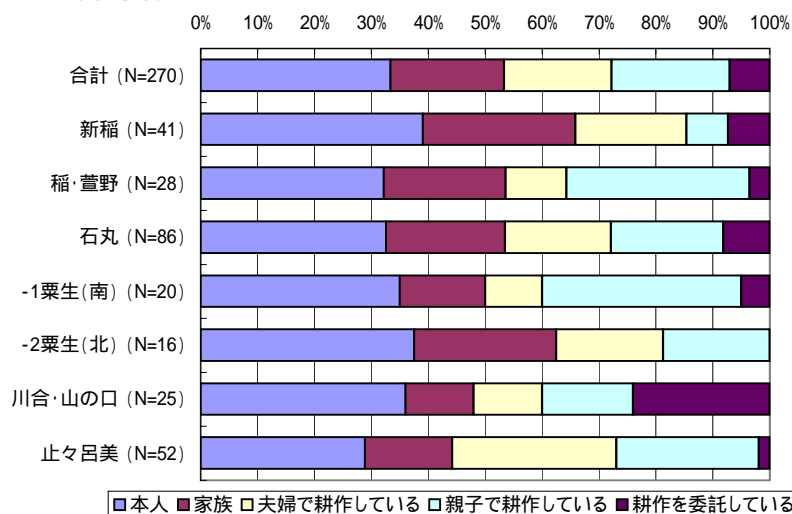
問6-3 農業以外の収入(問6で農業収入以外の収入があると回答した方)



・各地区で地代・借家経営の収入を得ている割合が多い。

・止々呂美では年金収入の割合が高い。

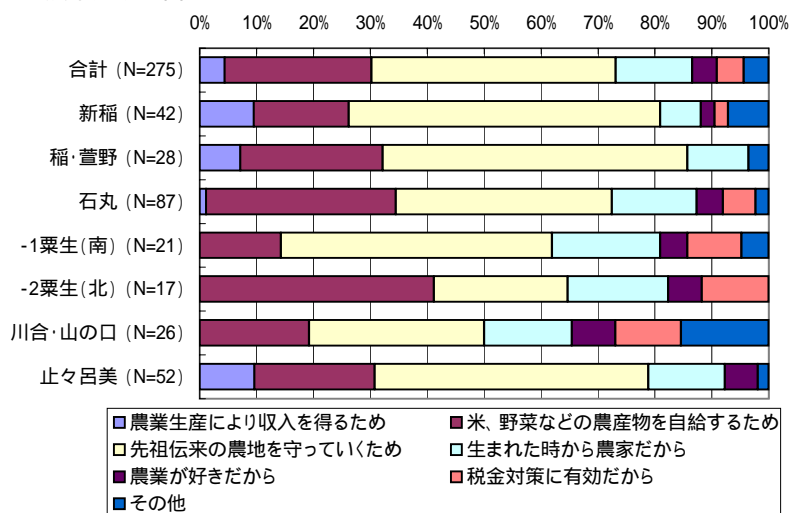
問7 農業従事者



・大半が本人、あるいは家族で耕作している。

・川合・山の口では耕作委託の割合が他より高い。

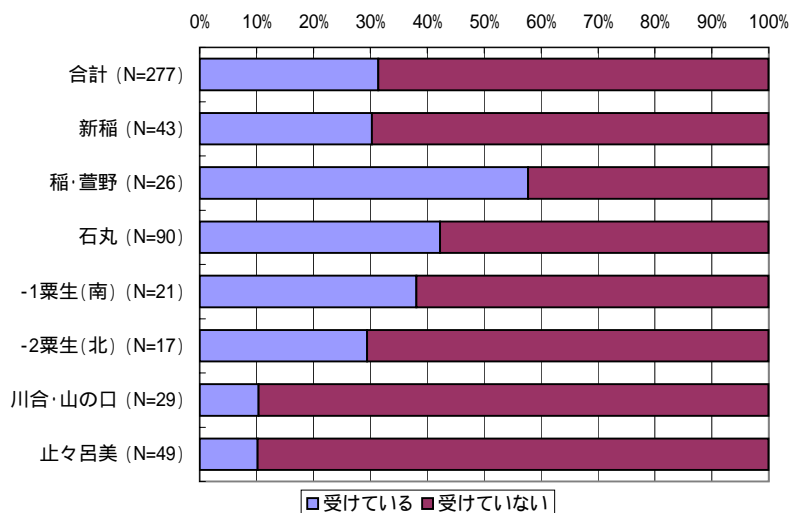
問8 農業継続理由



・大半が「先祖伝来の農地を守っていくため」としている。

・新稲、稲・萱野、止々呂美では「農業収入を得るため」との回答が見られる。

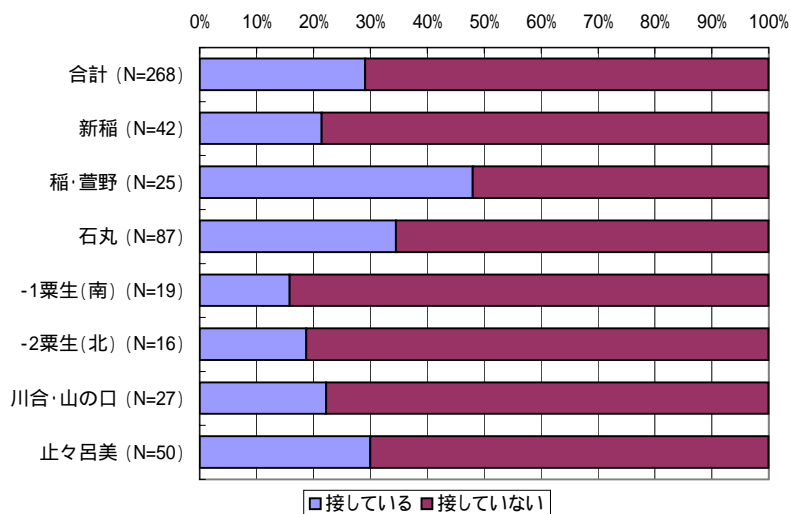
問9 納税猶予の適用有無



・稲・萱野で6割弱が納税猶予受けていることになる。

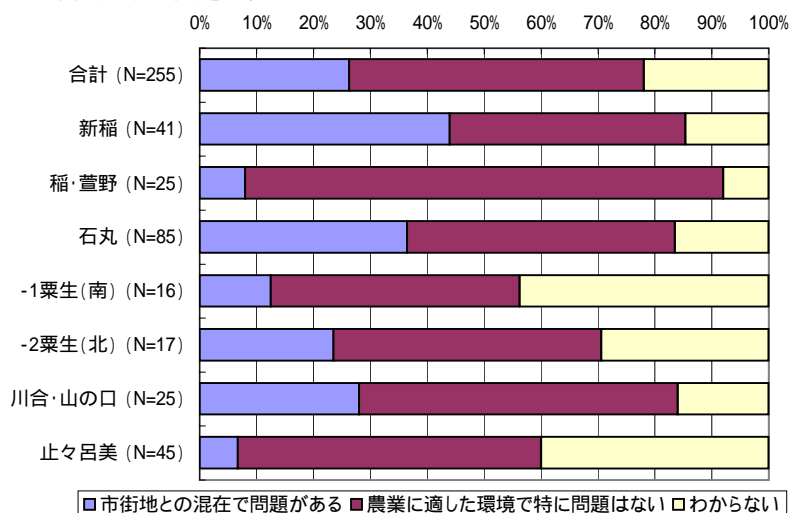
・川合・山の口及び止々呂美では1割程度にとどまる。

問10-2 農地の接道状況(広幅員の道路に接しているか)



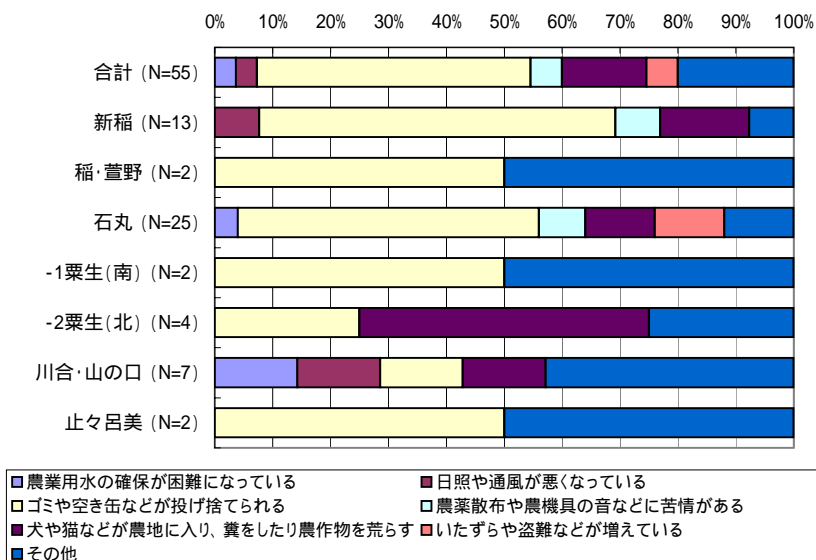
・稲・萱野、石丸では、国道171号等が想定される。

問11 営農環境の問題の有無



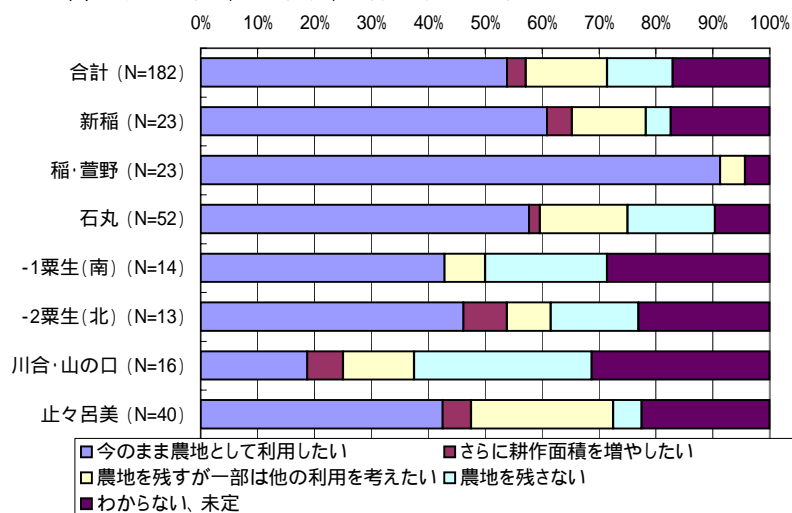
・新稲、石丸で問題があると回答した割合が高い。

問11-2 問題の内容(問11で問題があると回答した方)



・(回答数が少ないが)新稲、石丸などではゴミの投げ捨てが主な問題として挙げられている。

問12-1(a) 農地の当面(10年程度)の利用方法の意向

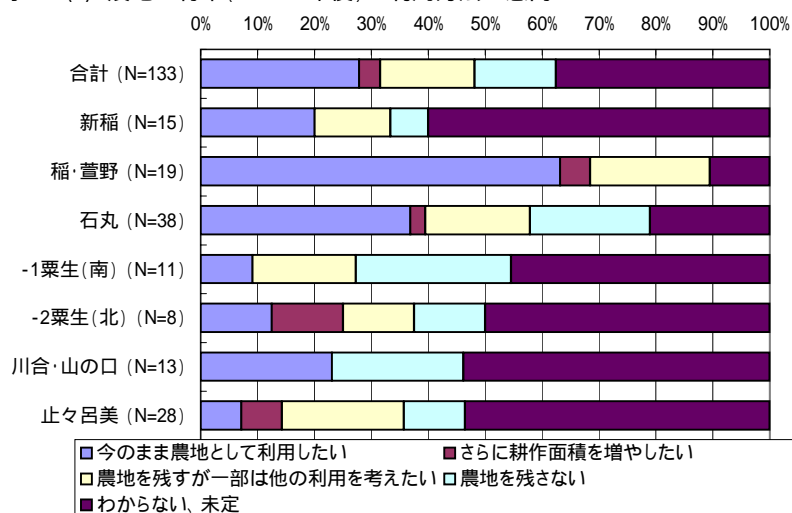


・ 稲、萱野は農地を保全する意識が高い。

・ 川合・山の口では「農地を残さない」と回答した割合が他と比較して高い。

・ その他の地区は、概ね半数が農地として利用したいとしている。

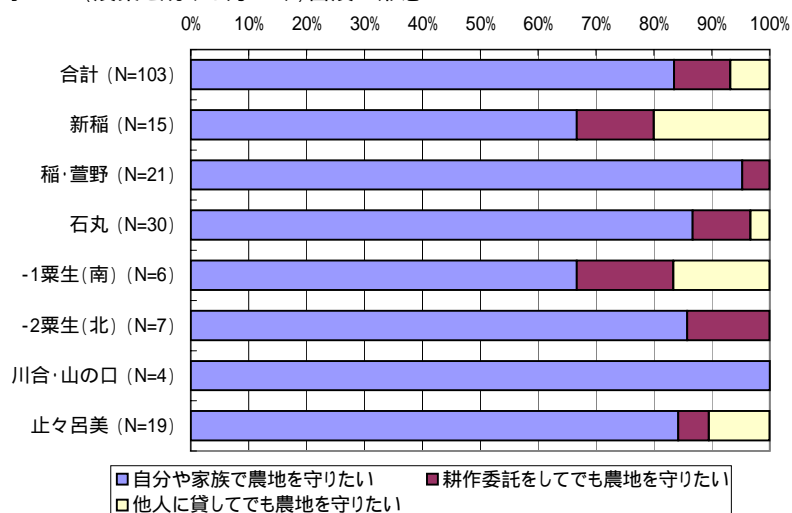
問12-1(b) 農地の将来(20~30年後)の利用方法の意向



・ 「わからない、未定」という回答が増えており、次の世代での利用法が想定しにくい状況がうかがえる。

・ 稲・萱野以外では、農地として利用したい割合は低くなっている。

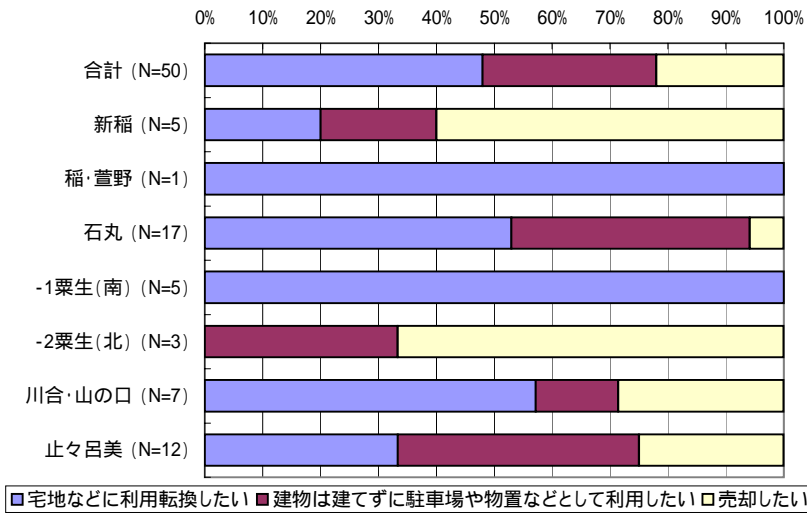
問12-2 (農業を続ける方のみ) 営農の形態



・ 大半が「自分や家族で農地を守りたい」としている。

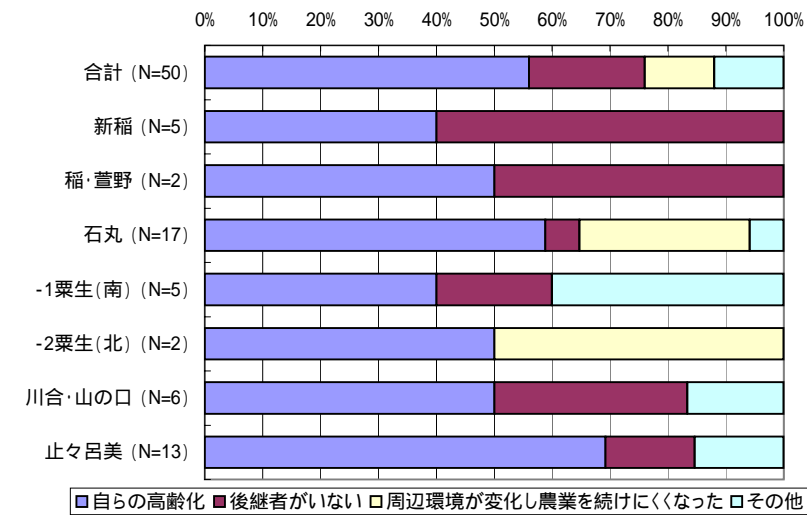
・ 新稲、-1粟生(南)では耕作委託や他人に貸してでも守りたいという回答が見られる。

問12-3 (他の利用を考える方のみ)利用内容



・(回答数は少ないが)半数は利用転換を希望している。

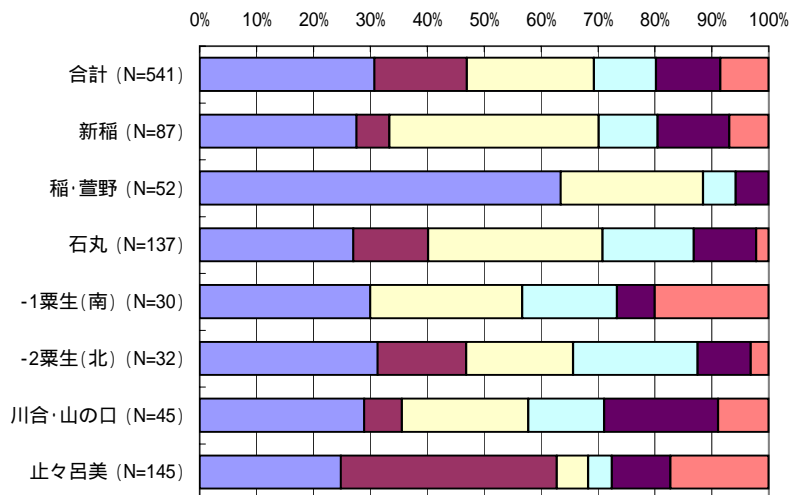
問12-4 (他の利用を考える方のみ)農地として継続できない理由



・(回答数は少ないが)自らの高齢化や後継者不足が主な理由としてあげられている。

以下、全ての回答者に共通の質問

問13 地区の環境の評価

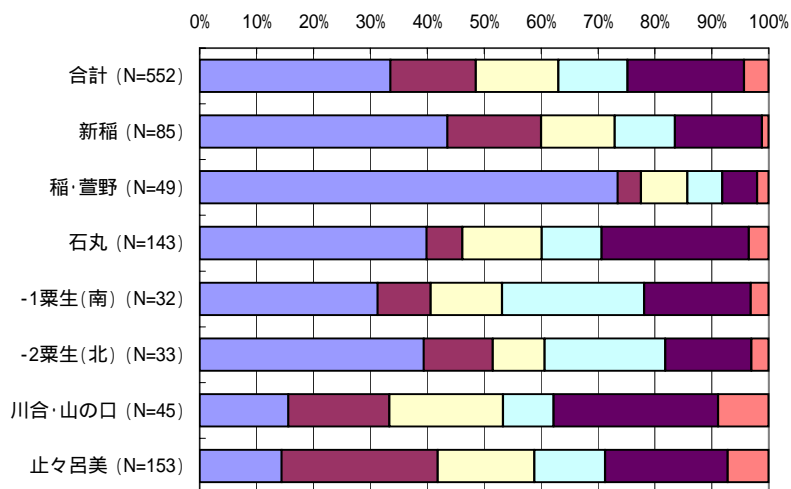


・ 稲・萱野では、美しい・快適といった好評価の割合が高い。

・ 止々呂美では不便で寂しい地区との評価が高い。

- まともな農地が広がる、美しい農村景観の地区
- 農地ばかりで店舗などが少なく、不便で寂しい地区
- 農地と市街地の両方があり、快適な生活環境の地区
- 農地と市街地が混在し、あまり快適ではない地区
- 広幅員の道路に近く便利な場所なのに農地として利用しており、もったいない地区
- その他

問14 地区の10年後の姿



・ 稲・萱野では現状を維持したいと回答した割合が7割を超えている。

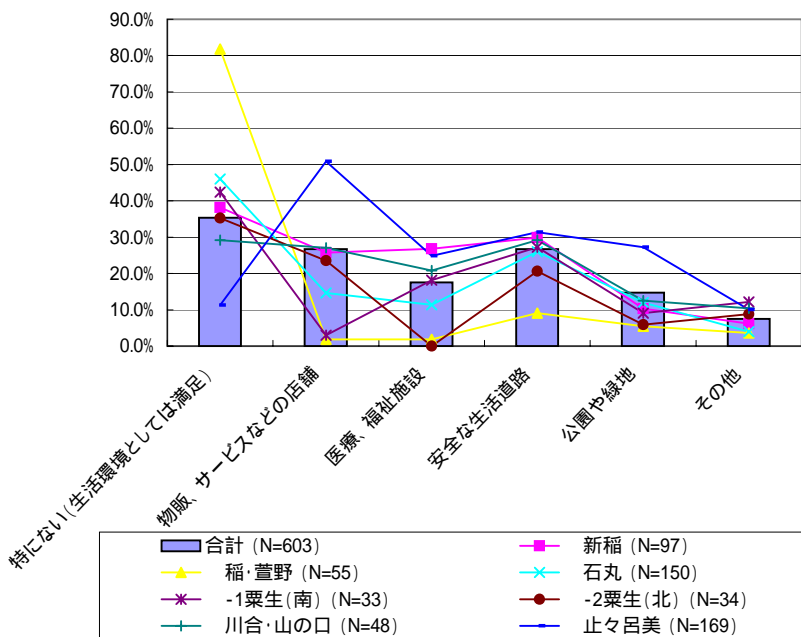
・ 川合・山の口、止々呂美では店舗・住宅等への利用を望む声が多い。

・ その他の地区でも現状のまま農地を保全したいという意向は半数を割っており、意見の相違が見られる。

- 現状のまま維持し、まともな農地が広がる地区になって欲しい
- 農地が主で、一部に店舗や住宅地等がある地区になって欲しい
- 全体の半分ほどが農地で、残り半分が店舗や住宅地等の地区になって欲しい
- 全体の2~3割ほどが農地で、大半は店舗や住宅地等が占める地区になって欲しい
- 農地は無くても良いので、集落・店舗・住宅地など市街化された地区になって欲しい
- その他



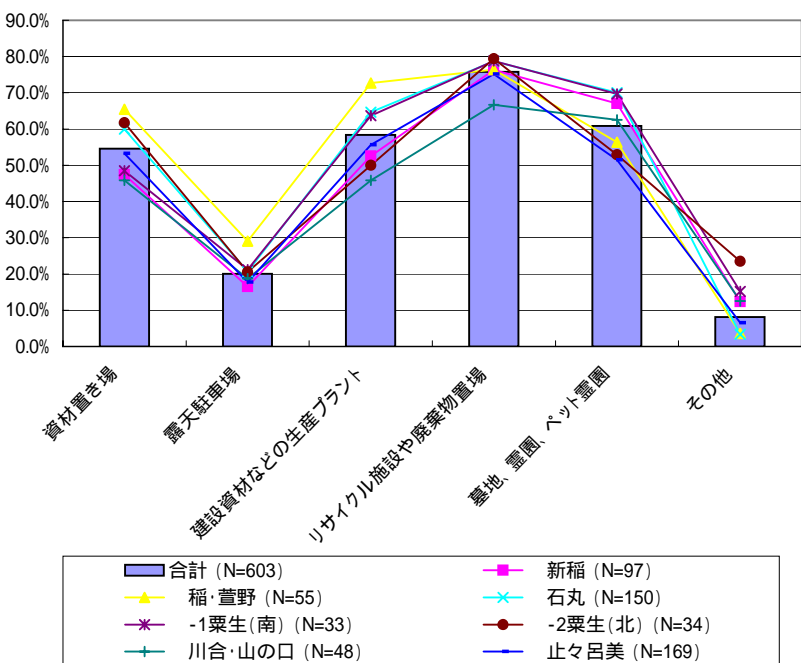
問15 生活環境としての施設ニーズ(生活環境として本地区に不足しているのは何ですか) 複数回答



・ 稲・萱野では8割が現状に満足している。

・ 止々呂美では店舗が必要という回答の割合が高い。

問16 立地してほしくない施設(今後、本地区区内に立地するのは適当でないと思う施設は何ですか) 複数回答



・リサイクル施設や廃棄物置場は約7割が、墓地・霊園、生産プラントや資材置き場等は半数以上が立地して欲しくないと感じている。